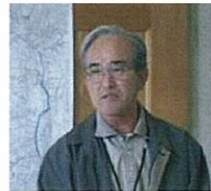


【第1回】●日 時:平成20年11月13日(木) 10:00~16:30 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内・周辺、吉沢公民館 ●参加者:総数69名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 増尾会長)

多くの地元の方、農大の宮林学部長、麻生教授、平塚市から5名の方にも参加いただき、お礼申し上げます。
「湘南ひらつか・ゆるぎ地区の活性化」とありますが、もっと吉沢全体へ広げて活性化していきたいと考えております。本日は一日、吉沢の大地を見ていただき、吉沢の資源をみつけていただき、先生にアドバイスをいただき、活性化につなげて行けたらと思います。



●東京農業大学あいさつ(農大 宮林学部長)

近年の里山は関心を持たずに荒れた状況であります。日本の里地里山は、自然植生や景観が良いだけではなく、一番良いのは、人の暮らしと自然の関係がうまく行っている点であります。
これからはその知恵を身につけて、「ライフマネジメント」生活を管理していく社会が重要であると思います。
今回、吉沢地区を里地里山のモデル地区として行きたいということで農大も参画させていただき、みなさまとともにアイデアを出しあって、吉沢地区の里地里山を世界へ発信していきたいと思っております。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 久永部長)

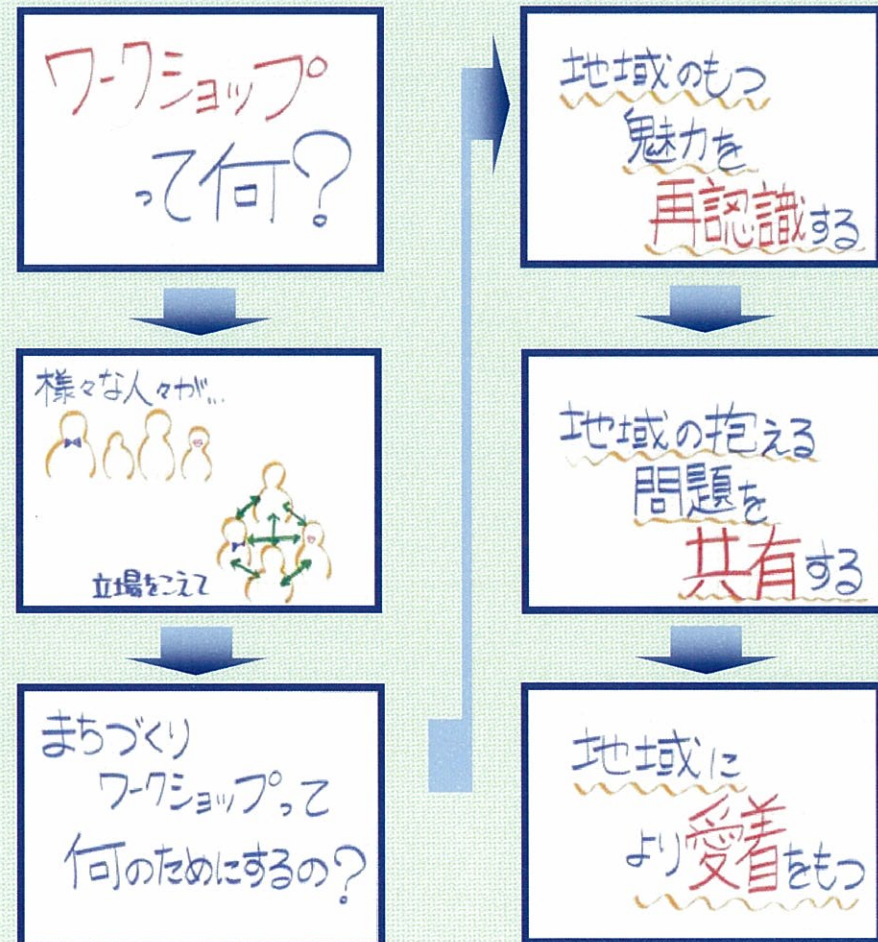
市では、第2次平塚市都市マスタープランを策定しています。当地区は西部地域「ウエスタンヒルズ」に位置し、地域の魅力「緑」を活かし、学術機関と連携したまちづくりとして位置づけられています。そして今回、東京農大が参画していただくことになり、ありがたく思っております。
当地区は色々制約もありますが、地元が丸となって、まちづくりを考えていくことが大事で、市としてもそれを支援していきたいと考えております。



ワークショップとは?

ワークショップの意味と目的は、さまざまな人(性別・年齢)が、立場を越えて、一緒に同じテーブルで話あうことです。

まちづくりワークショップは、地域の抱える問題点や魅力をみんなで共有、再認識することにより、今後の地域の課題や地域づくりに役立っています。また、地域に愛着を持ってもらうことにより、地域づくりの原動力となります。



ワークショップの概要



農大 麻生教授からの講評

これからの時代は、都市と農村、生産者と消費者が分かれるのではなく、21世紀は新しい生き方、社会の仕組みが求められています。「食農」「地域とのかかわり」「生涯レクリエーション」などが重要であり、色々な人々が関わって、新しい「食の循環」「里山の循環をマネジメントする仕組みができる」とよいと考えています。



各グループから出された意見をまとめた成果



●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 増尾会長)

先月13日に開催した第1回ワークショップでは、69名の方々にご参加いただき、盛会のうちに終わることができました。
また、本日も地元の方々をはじめ、農大からは宮林先生、麻生教授、大勢の学生さんにもお集まり頂いておりますので、活弁なワークショップになればと思います。
今朝見ました農業新聞の論説で、前回、宮林先生がお話されていた、里地里山が持っている自然管理の知恵についての記事が出ておりました。改めて、我々のやっていることはすごいことであると思いました。
また、前回、宮林学部長から「世界に発信する」というお話しもありましたので、地元としても夢を大きく持って、今後も頑張っていきたいと思っています。



●東京農業大学あいさつ(農大 宮林学部長)

現在、日本全国の重要な里地を選定する委員会の委員になっており、今年度中に300箇所程度を選定する予定です。その中で、生物多様性の視点だけでなく、地域の暮らしが見える里地を守っていくことが大事であると提案しました。その点からいけば、本地区での取組みは全国でもトップクラスに入ってきます。森林は我々に必要な多様な機能を持っています。これを守らないと次の世代に恥をかく、今の我々が次の世代に何を残すか、先祖が7割まで拡大してくれた森林資源を、良い状態で次の世代に渡していくことが我々の責任であると思います。
現在、全国的に美しい森づくり運動や国民参加の森作り、企業参加の森作り等の多様な森づくりが行われています。ただ、地元との協働や産学官連携で行っているのは数多くないのが現状です。従いまして、ここに期待することは大きいと思います。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 蓮主査)

前回に引き続き、平塚市から参加させていただきました。前回のまちづくり政策部長のあいさつにありました通り、平成19年9月に総合計画を策定し、平成20年10月に、20年後の平塚市の将来像を描く、都市マスタープランが策定されています。この方針に基づき、これから具体的な地域の土地利用を考えていくことになります。この「ゆるぎ地区」を含む市街化調整区域についても同様です。
本日は、若い学生さんも参加しているので、柔軟な発想、斬新なアイデア等を頂き、今後の平塚市のまちづくりに活かしていければと思っています。



ワークショップの概要

前回、各班で意見交換された『湘南ひらつか・ゆるぎ地区』の「問題点」「魅力」を踏まえ、

- ・「問題点」が解決するために
- ・「魅力」をより魅力的なものとして将来まで持続するために

みんなのできる活動、やりたいことを考えました。

まずはインタビュー形式で意見交換

各グループでまとめた意見

各グループごとに発表

〔「問題点」が解決するために〕 〔「魅力」をより魅力的なものとして将来まで持続するために〕
みんなのできる活動・やりたいこと

	すぐに取組めそうな事	いずれは取組めそうなこと
自然活動	○下草刈り、枝打ち、竹林整備 ○ボランティア ○草花のリスト調査 ○ツリーハウスづくり、ロープ遊び	○植物、生物の研究 ○山道の整備 ○中吉沢池の整備
農的活動	○農業体験 ○地元の物の販売店設置 ○地元野菜を使った料理教室	○農産物コンクール ○竹炭体験 ○農大朝市 ○地元野菜の世田谷での販売 ○貸農園整備
文化活動	○行事、曆づくり ○民話づくり ○歴史調査	○地域匠の発見 ○活性化協議会祭り ○農大オープンカレッジの里山散策講座の開設
レジャー・レクリエーション	○動植物観察会 ○地元の人による散策ガイド ○散策マップづくり ○カブトムシ、クワガタ販売 ○キャンプ場整備	○子供たちの遊び場整備(アスレチックなど) ○トイレ、ベンチの設置

農大 麻生教授からの講評

全体的に今回は短い時間の議論でしたので、大きな仕組みづくり、新しい発想の話が少なかった気がします。例えば、発想法の一つとして、要素と要素のかけ算をして、新しいものが出てくる場合があります。現代社会のニーズという切口から、どんな里山が求められているかを発想してみるといったことです。今後は、このようなことを議論する時間があっても良いと思います。
次回は、フィールドワークを実践するということですから、体を動かすことで新しいアイデアが出てくるかもしれません。

